



# 学校だより

墨田区立第三吾嬬小学校  
校長 川中子登志雄  
令和4年2月15日  
臨時号

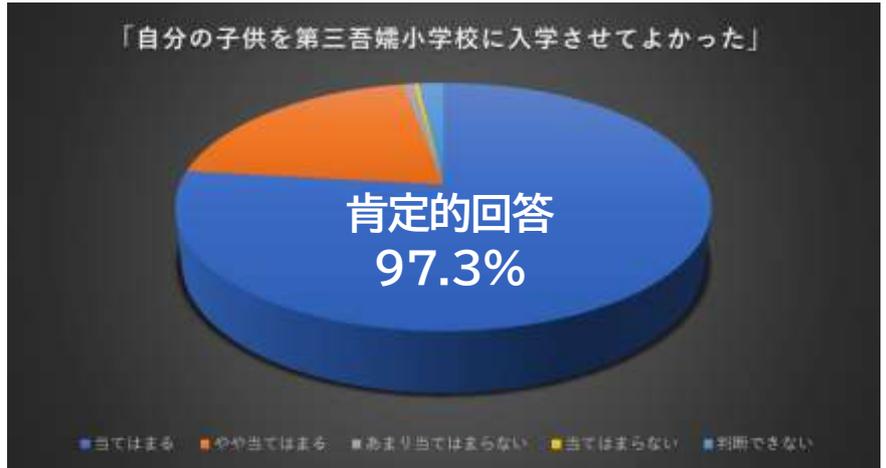


## アンケート回収率 全家庭数91%!

令和3年度の「本校の教育活動についてのアンケート(学校評価保護者アンケート)」の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

お忙しい中、昨年度に引き続き、91%の保護者の皆様にご協力いただくことができ、心より感謝申し上げます。まずは、この回答率の高さに、現在の三吾小の何よりの強みを感じております。「お子さんを『よい学校に通わせる』のではなく、お子さんの通っている学校を『よくする』保護者の皆様の思いが、この数値にはっきりと表れているものと思われま

す。また、例年行っている質問、「自分の子供を第三吾嬬小学校に入学させてよかった」については、ご覧の通り、97.3%の肯定的評価をいただくことができました。



## 令和3年度 学校評価保護者アンケート集計結果

回答率(家庭数) 91%		5段階評価 単位は%							
		当てはまる	やや当てはまる	肯定	判断できない	あまり当てはまらない	当てはまらない	否定	判断できない
1	学校は、積極的に教育目標を達成するための教育活動を推進している。	54.5	33.5	88	0.3	2.8	0.3	3.1	9
2	学校は、「三吾あいことば」を通して、自主自立・自律の生活態度が身に付くよう、指導に努めている。	49.3	37.8	87.1	0.3	1.8	0.8	2.6	10.5
3	自分の子供は、「三吾あいことば」を意識して生活している。	17.5	46.8	64.3	0.3	21	3	24	11.8
4	学校は、指導法の改善に努め、よりわかりやすい授業の工夫に取り組んでいる。	38.8	35.5	74.3	0.3	2.8	0	2.8	23
5	自分の子供は、国語科・算数科の学習の基礎・基本が定着している。	32	47.5	79.5	0.3	14.8	2.8	17.6	3
6	自分の子供は、理科・社会科・生活科の学習の基礎・基本が定着している。	22.5	45	67.5	0.3	15.5	3.5	19	13.5
7	自分の子供は、楽しみながら外国語(英語)の学習に取り組んでいる。	38.8	32	70.8	0.3	10.5	3.8	14.3	15
8	学校は、家庭学習を推進する手立て(宿題等)を適切に実施している。	41.8	39.8	81.6	0.3	10.3	1.3	11.6	7
9	自分の子供は、家庭学習にしっかり取り組んでいる。	33	42.5	75.5	0.3	17.5	5.5	23	1.5
10	学校は、避難訓練や安全指導などを通して安全教育に取り組んでいる。	65.8	25	90.8	0.3	1.8	0	1.8	7.5
11	自分の子供は、安全や危険回避に対する意識が高まっている。	32.8	51	83.8	0.3	11.3	1.3	12.6	3.8
12	学校は、身体的な児童を促す運動を「楽しむ」と「決まらない」指導を能くし、積極的に、差別やいじめの防止に努めている。	30.3	31.3	61.6	0.3	6.3	2.8	9.1	29.5
13	学校は、個々の児童に応じた支援に取り組んでいる。(主に、不登校傾向・重田生活になじめない児童等)	26.3	19.5	45.8	0.3	6.3	1	7.3	47
14	学校は、アンケート、公表「訪ねたいサロン」などにより、積極的に保護者の意見を聞き入れ、学校の授業改善に取り組んでいる。	55	21.3	76.3	0.3	2.5	0.3	2.8	21
15	学校は、学校公開、学業だより、ホームページ、メール、校長室動画配信、保護者会、個人面談などにより、積極的に教育活動や内容の情報発信に努めている。	76	21.3	97.3	0.3	1	0.3	1.3	1.5
16	上記の取組により、学校の取組や様子を把握できている。	41	45.5	86.5	0.3	7.3	0.8	8.1	5.5
17	自分の子供を第三吾嬬小学校に入学させてよかった。	77	20.3	97.3	0.3	0.8	0.3	1.1	1.8

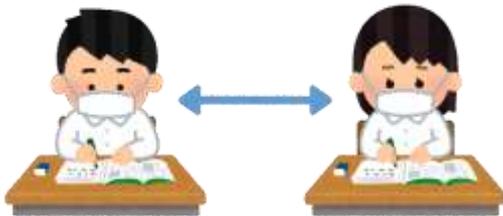
令和3年12月20日実施

## 取組指標(質問1, 2, 4, 8, 10, 12, 13, 14, 15)から見えること

学校の取組状況についての質問(取組指標)の結果は、概ね昨年度同様で、高い評価をいただきました。特に質問 2 番の「三吾あいことば」については、昨年度比で+8.1%と、大きな向上が見られました。児童アンケートでも年々「三吾あいことば」の定着率が高まってきていることがわかっております。

昨年度比で肯定的回答が下がっている項目は、12 番「学校は組織的に差別やいじめの防止に努めている」(65%→61.6%)、14 番の「学校は積極的に保護者の意見を取り入れて、学校の経営改善に取り組んでいる」(81%→76.3%)の二つでした。どちらも否定的な回答が多いわけではなく、「判断できない」が多かった結果と言えます。コロナ禍で学校の取組を直にお見せする機会が限られていることが原因と考えております。

今年度新設した質問は 1 番と 13 番でした。教育目標達成に向けての取組を尋ねた質問1は88%と高い結果でした。逆に、今年度の経営方針の重点項目として取り組んだ質問13の「個々の児童に応じた支援に取り組む」については、肯定的回答が45.8%と低くなりました。これは、主に不登校や集団生活になじめない児童への支援を想定しての取組に関しての質問でしたが、「判断できない」の回答が47%となっているためと思われます。



## 成果指標(質問3, 5, 6, 7, 9, 11, 16)から見えること

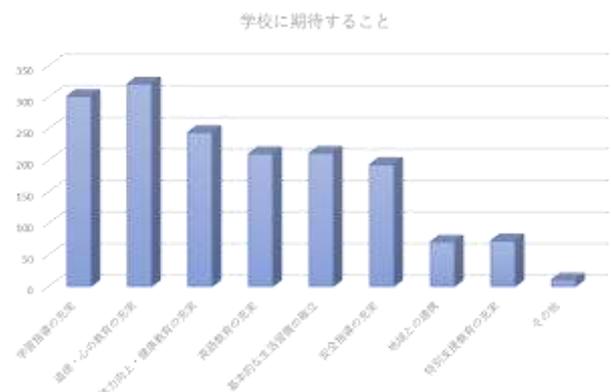
学校の取組によって、子供たちにどのような変容が見られたか、各家庭にどのような影響が現れているかを尋ねる成果指標の質問については、昨年度比で若干の低下の見られる項目があるものの、まずまずの結果でした。

質問3「自分の子供は、三吾あいことばを意識して生活している」は、昨年と比べて6.3%アップしました。質問5, 6, 7の学力については昨年度より低下が見られました。国語・算数については、昨年度より4.5%下がってはいますが、肯定的回答が80%と良好です。また、社会・理科・生活・外国語(英語)については、「判断できない」が14~15%見られ、肯定的回答も伸びませんでした。学力の向上は、本校の大きな課題の一つです。学校では、さらなる指導力の向上を目指し、教員の研修・研究も積極的に進めていますが、今後さらに力を入れてまいります。「家庭学習」については、75.5%のご家庭で良好であるとの回答がありました。今年度、これまで3年間配布してきた「三吾小・家庭学習のすすめ」を、GIGA スクール時代にあわせ改訂をいたしました。現在、ホームページにて公開しておりますが、新年度にはプリントにしたものを全児童に配布し、指導も行う予定です。

児童の危機管理意識や、学校の情報発信については、肯定的回答が80%を超え、成果が確認されました。引き続き、よりよい学校を目指して工夫・改善を進めていきます。

## 意識調査から見えること

質問19「学校に期待すること(複数回答)」の結果は、ほぼ例年通りで、今年も一番高かったのが「道徳・心の教育の充実」(321p)で、「学習指導の充実」(301p)、「体力向上、健康教育の充実」(244p)でした。これらは、教育目標の三つの柱とも完全に一致しております。また、今年度新設の項目「特別支援教育の充実」は72ポイントという結果になりました。



三吾小のよいところは？



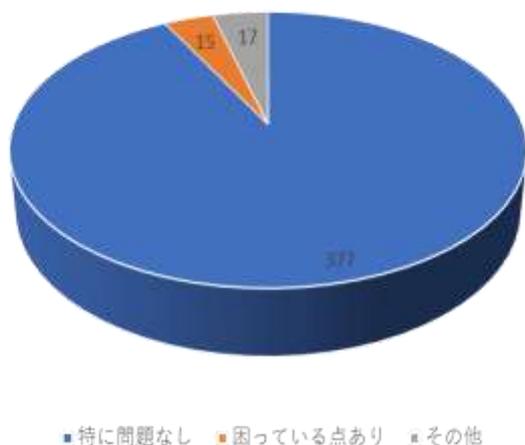
質問 20「三吾小のよいところはどんなところで  
すか？」については、ベスト 3 が、「学習環境」  
(240p)、「教員が熱心」(186p)、「授業」(158p)  
という結果になりました。

そのほか「よい友達ができる」「みんな仲がよい」  
がそれぞれ 125 ポイント、129 ポイントと、高い評  
価いただいております。

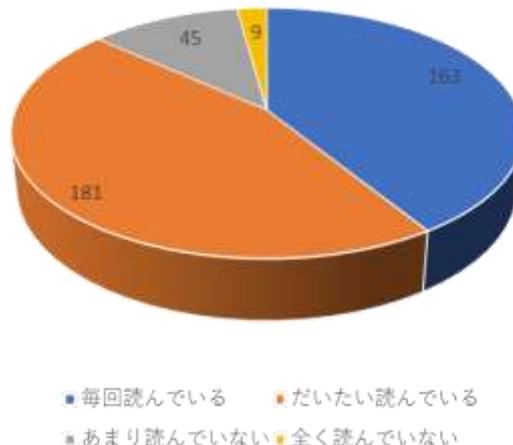
また、最近話題になっている「PTA 活動」につ  
いても60ポイントの高評価がありました。学校と  
してもうれしく思います。

今回、質問19, 20について「その他」の回答をお答えいただく欄を設けるのを失念しておりましたため、「その他」の具  
体的な内容を把握することができませんでした。そのほかの意識調査結果につきましては、学校だより 1 月号でお知らせ  
していますので結果のみお知らせします。

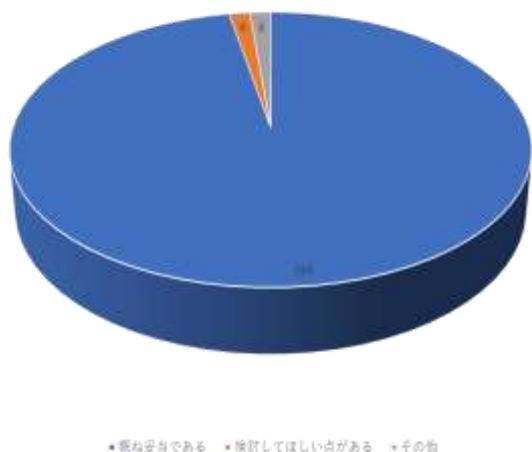
質問21「新しい学校連絡メールシステム」について



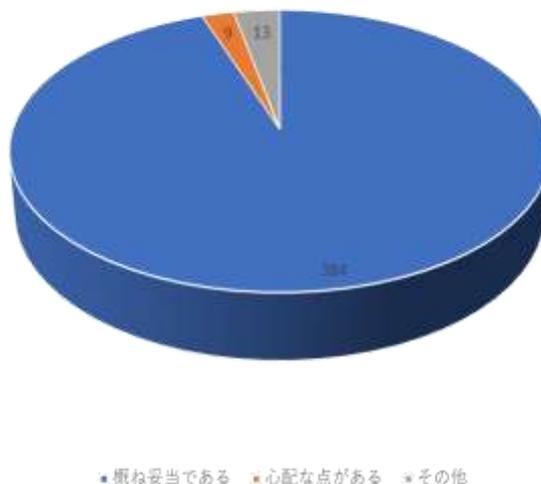
質問22「学校だより・学年便りのオンライン化」について



質問23「学校の決まり」について



質問24「学校のコロナ対策」について



## 自由記述のご意見から見えること

学校の教育活動に対する賛辞、教員へのねぎらい、主事や給食に対する感謝、学習室「みどり」、暗唱、合唱団等についてのあたたかいお言葉をたくさんの方の保護者の方が寄せてくださいました。ありがとうございました。これらの意見は、教職員にとって大変励みとなります。そのほかの質問・要望については、学校として以下のように考えております。



### 【学習面について】

「スピードトライアルについて。単純計算を反射的にいかに速く答えるか、という形式のテストは、令和の時代には合っていないのではないかと感じます。算数であっても、自分の頭で考え、判断し表現する力を育むことの方が重要なのではないのでしょうか。」

→ ご意見の後半については、現在、学校では全ての教科において目指している資質・能力です。しかし、自分で考え、判断し、表現する「思考」に最低限必要な知識・技能というものが、現在の学習指導要領でも、以前にも増して「基礎的な知識・技能の習得」は重要であるとされています。また、単純な計算によって、脳が活性化されることは、「百マス計算」を考案した立命館大学教授・陰山英男先生の実践や、「脳トレ」で大ブレイクした東北大学・川島隆太教授の研究でも明らかになっています。普段の授業では、思考力・判断力・表現力を高めるためにたっぷり時間をかけておりますが、基礎的な知識・技能を身に付けさせるドリルやトレーニングは、今後も大切にしていきたいと思います。

「暗唱活動など、やりたい子はできることが増えていることは感じますが、我が子を含め、やりたいと思わない子への働きかけはあるのでしょうか。」

「学校全体、いろいろな事に取り組み、自発的にやる気のある子供に育っていけるような環境なのは大変素晴らしいのですが、みんながみんなそのレールに乗れるわけではないです。現状できる子はどんどん伸びる反面、それについていけない子はどんどん置いていかれ、取りこぼされてしまっているように思います。そういう子がうまれないように、なかなかそこについていけない子たちにもう少しこまめなフォローをしていただけると幸いです。」

→ いろいろな形で子供たちへの声かけは行っておりますが、学級によって差があったり、子供たち一人一人の受けとめ方にも違いがありますので、確かにご指摘のような思いをしているお子さんやご家庭があると思います。学校として、一人一人の子供にあった支援や励ましができるように、努力してまいります。

「タブレットを活用してほしい。」「担任により iPad の使用頻度にかなり差があるので、均等にしてほしい。」

→ タブレットの活用については、全校でより効果的な活用方法を研究中です。学級による偏りのないよう、気をつけてまいります。

「クラスによって宿題の量が違うので、子供本人も不公平さを感じています。基本的に今のクラスでは宿題の量が多いような気がします。」

「親が見なければならぬ宿題が多いかなと思います。」

「宿題の丸付けなど、家庭でやることによって、子供の授業の理解など把握できるメリットはあるが、帰ってから間違いのやり直しなどをすると寝る時間が遅くなるのと、子供にも親にも負担になっている気がします。」

→ 宿題の考え方については、前述の通り、ホームページ上に「家庭学習のすすめ」(令和・改訂版)を掲載しておりますので参考にしてください。ご指摘の通り、担任によって差があることも事実ですので、学校でも、今後、悉皆の宿題の出し方について、学力向上委員会で検討してまいります。基本的には、睡眠時間を削らなければならないような宿題は出しておりませんが、ご家庭で事情がある場合は無理してやる必要はありません。子供が理由を話せるとよいのですが、ご心配でしたら、連絡帳にてご連絡いただければありがたいです。

## 【生活面について】

「持ち物に関して、もう少し簡素化していただいてもいいのではと感じます。  
(給食袋セットなど)」

「家で使わない教科書を学校に置いておくなどできるようにしてほしいです。ランドセルにはタブレットと宿題でつかう教科書、ノートだけにしてほしいです。1年生なのに3キロ以上のランドセルを背負って肩が痛いと言っています。大人の私が持っても重いと感じます。」

→ タブレット端末の持ち帰りが開始されたときから、学校に教科書を置いていってもよいことになっています。改めて、学級でも指導をいたします。



「タブレットは家庭に持って帰ったあと、夕方以降など使用できない時間帯を設定できるようにしてほしい。」

「上級生がスマホなどを使って卑猥な映像や言葉を、公園などで下級生に見せたり言ったりしている。タブレットでゲームをするやり方を見つけた子供が学校で広めて、多くの子供が先生や親の目を盗んでタブレットで遊んでいるようです。タブレットの持ち帰りは今のところマイナス面が大きいと感じざるを得ません。利用を制限するにも限界があると痛感しております。持ち帰りが本当に必要なのか、今一度ご検討いただければと思います。」

→ 家庭におけるタブレットやスマホ、PCの使用に関する問題は、非常にむずかしいものです。学校では、定期的に見本のタブレットの点検を行うなどして、注意を促していますが、見ていないところで何をしているかを完全に把握することはできません。デジタル時代を生きる子供たちです。ご家庭でも、ぜひ、どのように利用するのがよいか、お子さんと話す機会をもっていただきたいと思います。

「クラスに授業を乱す子がいるようです。授業の中断が気になります。」

「6年になって、心の成長とともに、自立する心の現れなのか、児童が自己主張する様子があるようで、一部授業が集中できないときがあるようです。今までにはそのような様子はなかったようなので、そのことが今現在少し気になっております。」

→ どの子も安心して授業を受けられるように、我々は日々全力で指導にあたっておりますが、子供たちに指導の通りにくくなる時も少なからずあります。教員は、指導法について研修し、日々児童理解に努めておりますが、経験豊富な教員ばかりではありませんので、心配おかけすることもあるかと思います。心配な方は、早めに担任までご相談ください。学校も、保護者の皆さんにご協力をお願いすべきと判断される場合は、躊躇することなくお願いさせていただきます。その時は、ぜひ、お力をお貸しいただければ幸いです。

## 【PTA 活動、子ども会等について】



「(前略)歴史も古く地域との関わりが深い学校だと思いますが、子ども会や PTA 役員の負担が大きすぎると思います。そのため役員のなり手もなく、毎年くじ引きで役員決めをすることが恒例になっています。イベントの担い手がいないのであれば、無理なくできる範囲での活動に縮小することも必要ではないでしょうか。また、子供のための子ども会でありながら、子連れ不可の夜間の活動(新旧顔合わせ会等)があることにも理解に苦しみます。子供の預け先がないご家庭は、その時間、夜にもかかわらず子供だけで留守番をさせることになってしまいます。コロナ禍でここ数年の活動は制限されていますが、この機会に核家族や共働き家庭が増えている実態に合わせて PTA や子ども会の役割も見直していただくと幸いです。」

「PTA、子ども会の積極的活動は保護者の負担になるので少なくていいと思う。」

「(前略)子ども会で立花・文花の人数が多いので、別で地区を作った方がいいと思う。各地区の人数のバランスがわ

るので一度範囲を考えてほしい。登校班も人数が多すぎると危険なのでは？40人集まる班もあると聞いたことがあります。学校は把握しているのでしょうか。」

「集団登校をやめてほしいです。すぐにやめるのが難しいのであれば、まずは現在の1ヶ月実施のところを、1週間にするなど短期にしてください。学校までの長い距離を大人数で列をなして歩くのはとても危険だと思います。保護者が後ろについていても危ないときもあります。何かあってからでは遅いです。行列で歩いている道には車も多く通ります。とくに信号を通る地区は危険です。信号を長い行列で渡るのは危険です。先頭は渡れても後方で信号が変わってしまうと危ないです。そしてもし一年生で心配なご家庭があれば、その場合は心配がなくなるまで親が学校まで送ればいいことです。どうかお願いします。」

「勤めているため、登校班当番のために会社を遅刻していかなくてはいけない。他の月は自由登校で、しかもコロナ禍なので、このまま登校班の習慣をなくしてほしいです。登校班を「集団登校」する利点は新一年生のためだけだったら、事前に登校通路を確認できるので取りやめてほしい。」

→ PTA については、学校教職員もその会員であり、三吾小に通う子供たちの幸せを考えることが第一の目的である任意団体で、保護者同士の親睦を図る企画や、学校の教育活動を支える活動もしていただいています。PTA 活動の保護者の負担感については、ここ数年、校長語らいサロンのテーマとして取り上げ、PTA 本部役員会でも話し合いを続けてきました。その結果、活動や役員の定数について、以前までと比べ改善されてきています。ここ2年ほどは、コロナ禍で活動らしい活動ができていませんが、PTA 会長さんとは今後のことについての話し合いを続けております。また、子ども会については、学校が企画・運営に関わる場所ではございませんので、各地区の子ども会代表の方に、このようなご意見が来ていることをお知らせして、ご検討いただいております。

ただ、ぜひ、一緒に考えていただきたいのは、子育ては「負担」なのかということです。私は、着任以来、学校のための下働きの「やらされている」だけの活動はやめようと話してきました。しかし、PTA そのものが不必要であるとは考えていません。むしろ、「学校」が地域のコミュニティーの中心であることは、このように先行きの見通せない現代社会だからこそ、これまで以上に重要な意味をもってきているのではないかと考えています。下町の風情を色濃く残しているこの八広地区も、元からここに暮らしてきた方々と、転居して新たに住み始めた方々が半々になってきました。大人は、そうやって新しい住民となりますが、子供にとってはここがかけがえのない子供時代を過ごす「ふるさと」になります。ともに子育てするもの同士が、お互い顔見知りになり、いざというときに助け合うことができるようになるきっかけは、やはり学校を中心としたコミュニティーではないかと思うのです。それ以外にも、災害時など、近隣の方と協力して、助け合わなければならない時

がいつ来るかも分かりません。地域でのお付き合いは、確かに煩わしいことかもしれませんが、これからの社会では、「仕事」だけでなく、「家庭」や「地域社会」とどう関わっていくのかが、私たちの生活の質の向上に欠かせない視点となってきています。PTA や子ども会の活動を通して、「地域」という、もう一つの人生を考えることができれば、より豊かな人生となるのではないかと、私は考えています。今、日本人の働き方について、ようやく国民的な議論が始まったところ。子育てや地域のために、堂々と仕事を休める社会こそが、これから求められる成熟した社会ではないでしょうか。

できるだけ無駄を省き、活動を厳選していくことは必要です。PTA の活動が、本来の目的に合致し、参加される皆さんのためになるものとなるよう、これからも学校もともに考え、改善に努めてまいります。



今回実施した保護者アンケートの他、児童アンケート・教職員アンケートの結果、および学校運営連絡協議会でご検討いただいた学校評価のまとめを、「第三吾嬬小学校・学校経営計画・評価表」などにまとめ、本校ホームページ「学校評価関連各種アンケート結果 学校評価表」のページに掲載しております。そちらもあわせてご覧いただければ幸いです。ご協力ありがとうございました。